

イネばか苗病 予防チェックシート

ばか苗病の撲滅は、健全な種子を使った品質の安定した米生産のために緊急かつ必要不可欠な取組です。皆さんも今一度ばか苗病対策について確認をお願いします。

- 浸種～育苗を使う場所やその周辺を十分清掃し、伝染源となる稲ワラ、籾殻、米ぬか、粉塵等を除去している。
- 消毒前と消毒後の種籾を、同じパレットやシート等に置いていない。
- 温湯消毒済みの種子は、清潔で過湿にならない場所で保管している。
- 浸種、催芽で使用する機器並びに容器は、品種や消毒方法が変わるごとに十分洗浄している。
- 温湯消毒や微生物農薬による種子消毒は、それぞれ単用では効果が劣るため、これらを組み合わせた体系的な処理を行っている。
- 浸漬による種子消毒時には薬剤の効果を安定させるため水温10℃以上を確保している。また、籾袋を数回ゆすって袋中の空気を追い出した後浸漬を開始し、途中1～2度袋をゆすって、薬液を攪拌する。
- 浸漬後は、籾の表面が白くなるまで陰干しをしている。
- 一度使用した消毒液は処分し、使いまわしはしていない。
- 浸種時の水温は（ばか苗病菌の増殖を抑えるため）、10℃を目標に管理している。
- 浸種の際の水交換は種子に付いた薬剤が流れ落ちないように静かに交換している。
- 育苗箱内の発病株（ばか苗）は、見つけ次第直ちに抜き取り、育苗場所から離れたところに埋設するか焼却している。

前年度にばか苗病の発生があった方は、以下の点も確認をお願いします。

- 育苗箱・シートをケミクロンGまたはイチバンで消毒している。
- 消毒や浸種で使用した水槽の清掃・消毒を十分に行っている。
- 自家採種の種籾を使用していない。